

共同研究
事例②
テーマ

モバイルウォーターによる環境コミュニケーション ツールとしての活用方法の検討

共同研究者：日本ベーシック株式会社・川崎市

概要

日本ベーシック㈱が開発した自転車搭載型浄水装置「モバイルウォーター」について、国際貢献活動への活用を念頭に、国内外の水環境情報の収集及び関連主体とのネットワーク形成を行いました。また、昨年度に引き続き、水質浄化に関する環境教育プログラム・教材を作成しました。

川崎市は、国際貢献関連主体からの情報収集、環境教育フィールドやノウハウの提供、取組内容の情報発信等を、日本ベーシック㈱は「モバイルウォーター」の提供、国際貢献関連主体とのネットワーク構築のためのセミナー開催、モバイルウォーターを用いた環境教育の実践等をそれぞれ分担しました。

国際貢献活動への活用については、国内関連団体等へのヒアリング調査を実施し、複数団体が参加するセミナーに結実しました。環境教育については川崎市発の環境技術を活用した環境教育を複数の市立小中学校で実施し、これらを通じて「モバイルウォーター」による環境コミュニケーションツールとしての活用手法の研究を行いました。



日本ベーシック㈱
代表取締役
勝浦 雄一氏

共同研究に参加した感想

事業実施過程での市との話し合いで、水の再資源化や子供への環境教育など、「防災」ではない「環境」という視点からモバイルウォーターを見ることが出来ることに気付きました。川崎市と相互にWIN-WINの関係が築けるメリットも大きいと思います。

共同研究者概要

企業名：日本ベーシック株式会社
所在地：川崎市中原区
設立：2005年5月
資本金：3,000万円
事業概要：災害・緊急用浄水機器の研究開発・販売



KAWASAKI CITY

川崎市

共同研究に参加した感想

モバイルウォーターを活用して環境コミュニケーションのツールとしての活用手法を検討することができました。市内の汎用環境技術についても、環境教育や情報収集発信などコミュニケーションのツールとしての活用が期待されます。